

2015

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画
(綾の照葉樹林プロジェクト)

平成 27 年度 事業報告書



綾プロ 10 周年記念「新緑の綾の森へ行こう！」(2015 年 5 月 17 日 綾の照葉大吊橋にて)

綾の照葉樹林プロジェクト連携会議

九州森林管理局・宮崎県・綾町

(公財) 日本自然保護協会・(一社)てるはの森の会

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）

平成 27 年度 事業報告書

目 次

I	第Ⅲ期短期行動計画	4
II	平成 27 年度 事業報告（※短期行動計画順に、実施した事業名・報告書記載者名を掲載）	
1	項目：協働の体制づくり ― 綾の照葉樹林プロジェクトの推進のための基盤整備	
1-3-③	プロジェクト事務局運営事業（てるはの森の会）	6
2	項目：照葉樹林の保護 ― 保護林の計画的・順応的保全管理を実施	
2-3-①	横断的な保全管理計画を策定（連携：九州森林管理局）	7
2-3-①	綾町森林整備計画の見直し（綾町）	8
3	項目：照葉樹林の復元 ― 照葉樹林への効果的・効率的な復元を推進	
3-2-①	人工林から照葉樹林への復元事業（綾町）	9
3-2-②	持続的林業経営エリア及び環境教育エリアにおける森林整備（九州森林管理局） ..	10
3-2-③	復元見本林の設置（九州森林管理局）	11
3-3-①	照葉樹林復元ボランティア作業の実施（九州森林管理局）	12
4	項目：照葉樹林の調査研究 ― 照葉樹林を適切に復元するための 調査研究を推進し、復元に反映	
4-2-②	照葉樹林復元の間伐試行モニタリング等及び 綾の照葉樹林プロジェクト管理計画書(案)の作成に係る業務（九州森林管理局）	13
5	項目：照葉樹林を通しての環境教育 ― 照葉樹林の重要性を学ぶ環境教育の実践	
5-1-①	環境教育のための行動計画を策定(連携：九州森林管理局)	14
5-1-③	照葉樹林環境教育講座（綾町）	15
5-1-③	生涯学習講座（綾町）	16
5-2-②	県有林造成事業（宮崎県）	17
5-2-②	遊歩道整備ボランティア作業（てるはの森の会）	18

6 項目：プロジェクトの情報発信	－ 情報発信及び支援の輪の拡大活動	
6-1-②	会員情報（てるはの森の会）	19
6-1-③	市民参加による自然林の復元調査及び自然林の調査（日本自然保護協会）	20
6-2-①	綾プロ 10 周年記念行事（記念誌）の作成（九州森林管理局）	21
6-2-③	ホームページ等による情報発信（九州森林管理局）	22
6-2-③	普及啓発事業（てるはの森の会）	23
6-2-④	綾プロ設立 10 周年事業（連携：九州森林管理局）	24
6-2-④	綾プロ設立 10 周年記念行事（フォーラム）の開催（九州森林管理局）	25
6-2-④	照葉樹林文化シンポジウム運営補助（綾町）	26
6-2-⑤	事業説明会の開催（九州森林管理局）	27
6-3-①	環境学習事業・照葉樹林ガイドボランティア事業補助（てるはの森の会）	28
6-4-①	森林セラピー基地整備事業（綾町）	29
7 項目：照葉樹林と共生した地域づくり	－ 自然と共生した地域づくり	
7-1-①	地域づくりワーキングの設置と運営・事業補助（てるはの森の会）	30
7-1-②	照葉大吊橋 森の驛運営事業（てるはの森の会）	31
7-1-③	ふれあい調査（てるはの森の会）	32
7-3-①	綾町森林・林業関係検討会（九州森林管理局）	33
7-3-①	ユネスコエコパークとの連携（綾町）	34
7-3-①	綾ユネスコエコパーク専門委員会、地域連携協議会への出席。 綾町ユネスコエコパーク運営会議における実施計画策定支援（日本自然保護協会）	35
8 項目：生物多様性の保全	－ 生物多様性の保全管理	
8-1-③	綾生物多様性地域戦略 実践支援事業（綾町）	36
Ⅲ	平成 27 年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連文献一覧	37
Ⅳ	平成 27 年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連新聞記事	38

第Ⅲ期短期行動計画（平成25年～29年度）

第Ⅲ期短期行動計画						平成 27 年度事業報告			
項目		第Ⅲ期課題	行動計画	実施項目	主担当	記載者	事業名	連携先	頁
1	協働の体制づくり	綾の葉樹林プロジェクトの進めたための基盤整備	1 協定書を見直し第Ⅳ期行動計画を作成する	① 協定書を延長するとともに必要に応じて内容の見直しを検討	全				
			2 森林計画の策定し、照葉樹林の復元、地域づくりを推進する	② 本プロジェクトを規定する森林計画を策定	全				
			3 事務局体制を確立し、安定的な事務局業務の運営を行う	① 安定的な財政基盤を確立	全				
				② 2名以上の専従の雇用し、事務局業務運営を行う	全				
			③ 事務局運営のための事務所の整備	全	T	プロジェクト事務局運営事業	全	6	
2	照葉樹林の保護	保護林の計画的・順応的保全管理を実施	1 保護林の保全管理計画を策定する	① 綾森林生態系保護地域の保全管理計画策定	国・N・J				
				② てるは郷土の森の保全管理計画策定	国・町				
				③ 県植物群落参考林の保全管理計画策定	県				
				④ 綾川上流緑の回廊モニタリング調査	国				
			2 保全管理計画に基づき適切な保全管理を行う	① 巡視体制の構築	全				
				② 管理施設（案内板・標識等）の整備	全				
				③ モニタリング調査	全				
			3 綾プロエリア全域の保全管理計画の策定	① 横断的な保全管理計画の策定	国・県・町	国	横断的な保全管理計画を策定（連携）	全	7
			町	綾町森林整備計画の見直し	国・県	8			
3	照葉樹林への効果的・効率的な復元を推進	照葉樹林への効果的・効率的な復元を推進	1 効果的・効率的な復元手法を確立する	① 復元の基本方針（構想）を策定する	国・N・J				
				② 復元の手法の確立（復元手法マニュアルの作成）	国・N・J				
			2 計画的な施業を実施する	① 計画的な間伐の実施（国有林、県有林、町有林）	国・県・町	町	人工林から照葉樹林への復元事業		9
				② 持続的な林業経営を行うエリアにおける施業の実施	国	国	持続的な林業経営エリア及び環境教育エリアにおける森林整備		10
				③ 復元見本林の設置	国・N・J	国	復元見本林の設置	NJ	11
3 市民のプロジェクトの参加を推進する	① 市民参加型の復元作業の実施	国・N・J	国	照葉樹林復元ボランティア作業の実施	T	12			
4	照葉樹林の調査研究	照葉樹林を適切に復元するための調査研究を推進し、復元に反映	1 効果的・効率的な復元手法を確立する	① 調査研究ワーキンググループの設置、運営	国・NJ				
				② 基本方針に基づき調査・研究体制の整備	全				
				③ 他のワーキンググループ、調査研究機関との連携	全				
			2 調査・研究のための基本方針（構想）を策定し、計画的に調査を実施する	① 調査・研究の基本方針（構想）を策定	全				
				② 基本方針に基づき毎年度計画的な調査の実施	全	国	照葉樹林復元の間伐試行モニタリング及び綾の照葉樹林プロジェクト管理計画書（案）作成に係る業務	NJ	13
				③ 復元に必要なデータの収集と解析	国・NJ				
			3 復元効果を評価する調査研究を推進する	① 間伐後の復元状況を評価調査実施（国有林、県有林、町有林）	国・NJ				
				② データの収集、解析、復元方法へのフィードバック方法の確立	国・NJ				
			4 人工林等からの照葉樹林への復元手法等を検討する	① 間伐木の処理方法等についての検討	国・T・N・J				
				① 調査・研究成果の情報発信	全				
			5 調査・研究成果の共有化及びデータベースを構築する	② GISを活用した林小班ごとの復元に必要な情報の整備	国・NJ				
				③ 調査・研究成果の共有化・データベース化	国・NJ				

第Ⅲ期短期行動計画					平成 27 年度事業報告				
項目		第Ⅲ期 課題	行動計画	実施項目	主担当	記載 者	事業名	連携 先	頁
5	照葉 樹林 を通 して の環 境教 育	照葉 樹林 の重 要性 を学 ぶ環 境教 育の 実施	1 環境教育プログラ ムを策定、実践	① 環境教育を実施するための行動計 画を策定	全	国	環境教育のための行動計画 を策定	全	14
				② 環境教育エリア内の必要な整備計 画を策定	全				
				③ 環境教育プログラムを検討し、試 行的に実施	国・ 町・T	町	照葉樹林環境教育講座		15
				④ 環境教育エリア内の環境整備	全		生涯学習講座		16
			2 大吊橋周辺、川中 自然公園の活用方法を 検討、整備を行うとと もに環境教育を実践す る	① 大吊り橋周辺、川中自然公園の環 境教育に関する活用方法の検討	T				
				② 必要なルート整備を実施	県・町	県	県有林造成事業		17
						T	遊歩道整備ボランティア作業	県・町	18
				③ 崩壊した九州自然歩道について新 たなルートを検討し、今後の活用方法 について提案	県				
6	プロ ジェ クト の情 報発 信	情報 発信 及び 支援 の輪 の拡 大活 動	1 市民や民間企業参 画のためのシステムや メニューづくりを行 い、プロジェクトを推 進する	① 綾プロの支援メニューづくり・企業 の支援メニューづくりを検討し、実践	T				
				② サポーターの募集を行い、会員を 増やす	全	T	会員情報	全	19
				③ 市民参加型の林床調査を実施する (国有林、県有林、町有林)	全	NJ	市民参加による自然林の復 元調査及び自然林の調査	国・ 町・T	20
			2 広く一般にプロジ ェクトの内容を知って もらい、会員の拡大を 図る	① パンフレット、リーフレットの作 成及び配布	全	国	綾プロ 10 周年記念行事(記念 誌)作成	全	21
				② ニュースレター、報告書の作成及 び配布	全				
				③ HP の作成及び更新	全	国	ホームページ等による情報発信		22
						T	普及啓発事業	全	23
				④ ファーラム・シンポジウムを実施	町・T	国	綾プロ設立 1 0 周年事業(連携)	全	24
						国	綾プロ設立 1 0 周年記念行 事(フォーラム)の開催	T	25
						町	照葉樹林文化シンポジウム 運営補助		26
			⑤ 事業説明会の実施	全	国	事業説明会の開催	全	27	
			3 ガイドボランティ アを養成し、市民の理 解を深め、てるはの森 の会の会員増加を図る	① ガイドボランティア事業の実施・ 養成	T	T	環境学習事業・照葉樹林ガイ ドボランティア事業の実施	町	28
				② ガイドボランティアがガイドを通 して市民に綾プロを理解してもらうた めのプログラム作り	T				
			4 森林セラピー基地 としての綾町の取り組 みを通して、会員増加 を図る	① 森の案内人を通した照葉樹林の新 たな活用方法を検討し森林セラピー プログラムを作成	町	町	森林セラピー基地整備事業		29
				② ガイドボランティアとの連携体制 についての検討	町・T				
7	照葉 樹林 と共 生し た地 域づ くり	自然 と共 生し た地 域づ くり	1 市民との協働で実 施する運営体制を構築 し、市民が積極的に綾 プロに参画できるように する	① 地域づくりワーキングの設置及び 運営	町・T	T	地域づくりワーキングの設 置と運営・事業補助	町	30
				② てるはの森の驛の活用方法を検討 し、それに応じて必要な整備	町・T	T	照葉大吊橋 森の驛運営事業	町	31
				③ ふれあい調査の実施	NJ・ T・町	T	ふれあい調査	町	32
			2 綾町の他の事業と の連携のあり方を検討 し、実行計画を策定する	①活用方法を検討する市民協議会・ワ ーキングの設置	町・T				
				3 綾ユネスコエコ パークとの連携による 綾プロを推進する	① ユネスコエコパークとの連携	全	局	綾町森林・林業関係検討会	県・町
			町				ユネスコエコパークとの連携	全	34
			NJ				綾町ユネスコエコパーク関連の会議出 席。実施計画策定支援	町	35
8	生物 多様 性の 保全 管理	生物 多様 性の 保全 管理	1 生物多様性保全のた めの戦略等を策定する	① 綾町の里山周辺の植生調査	NJ				
				② 生物多様性地域戦略策定～ワーキ ングの設置及び運営	NJ・ 町・T				
				③ 生物多様性地域戦略の策定	全	町	綾生物多様性地域戦略 実践 支援事業	NJ・T	36
				④ 生物多様性地域戦略の実施	全				

国は九州森林管理局、県は宮崎県、町は綾町、NJは日本自然保護協会、Tはてるはの森の会の略、全は連携会議各機関

1 項目：協働の体制づくり

事業名	プロジェクト事務局運営事業	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画 -実施項目	1－3－③	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	関係機関との調整、問合せ対応、事業の企画運営などを行なう。 年2回開催の連携会議、月1回開催の連絡調整会議の連絡調整、資料作成等の準備を行う。		
○連携会議			
	回数	日時	主な議題
	22	6月30日	平成26年度の事業報告、平成27年度の事業計画 10周年記念行事について、 綾プロ管理計画策定の日程等、綾プロの運営について
	23	2月22日	平成27年度の事業取組状況、綾プロの運営について
○連絡調整会議			
	回数	日時	主な議題
	1	4月20日	綾プロ10周年記念行事について 平成26年度報告書、平成27年度事業計画について 連携会議日程について
	2	5月16日	綾プロ10周年記念行事について 連携会議について、今後の日程について
	3	6月30日	綾プロ10周年記念行事について 平成26年度報告書、平成27年度事業計画について 連携会議について
	4	8月4日	綾プロ10周年記念行事について 今後の日程について
	5	9月4日	綾プロ10周年記念行事について 今後の日程について
	6	10月14日	綾プロ10周年記念行事について 間伐について、連携会議で出た検討事項の進め方について
	7	11月27日	間伐作業について、今後の日程について 連携会議で出た検討事項の進め方
	8	1月15日	間伐作業について、今後の日程について 連携会議で出た検討事項の進め方
	9	2月22日	連携会議について、今後の進め方について
	10	3月14日	間伐体験について、照葉樹林ロングウォークについて 連絡調整会議の運営について
○綾プロ10周年記念誌編集委員会 全5回（4月17日、4月20日、6月10日、8月4日、8月19日）			
○連携会議で出た検討事項の検討会 全1回（1月15日）			

事業名	(連携) 横断的な保全管理計画を策定 (新規)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	2-3-①	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトエリア全域の保全管理計画の策定		
平成27年度の委託事業として、綾プロの取組に沿った保全管理を推進するため国有林エリアにおける「管理計画書（案）」を作成したところであるが、綾プロ全体（町有林・県有林・国有林）での管理計画書を策定するため、現在、連絡調整会議において調整を進めている。			

2 項目：照葉樹林の保護

事業名	綾町森林整備計画の見直し(新規)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	2-3-①	連携先	九州森林管理局 (宮崎森林管理署) 宮崎県
事業概要 (目的)	九州森林管理局が策定中の保全管理計画との連携の中で、平成25年4月に策定した綾森林整備計画書の見直しを行う。		
綾町森林整備計画の見直しを検討中である。			

事業名	人工林から照葉樹林への復元事業(継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	3-2-①	連携先	
事業概要 (目的)	綾プロエリア内の町有林の保護、復元に伴う作業の検討及び検証		
■ 町有林の間伐については、ほぼ完了。平成27年度は、実施せず。 今後の状況に応じて検証の上、必要であれば除伐等も検討。			

3 項目：照葉樹林の復元

事業名	持続的林業経営エリア及び環境教育エリア における森林整備（継続）	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3-2-②	連携先	
事業概要 （目的）	綾の照葉樹林プロジェクトの持続的林業経営エリア・環境教育エリアにおいて、 水土保持機能を高めるため保育間伐等を実施するとともに、復元エリアにおいても 人工林を照葉樹林に復元するための間伐作業を実施した。		
綾の照葉樹林プロジェクト持続的林業経営エリア・環境教育エリア・復元エリアの作業内容			
1 エリア9	水土保持機能を高めるための保育間伐作業を実施 間伐面積：7.06ha		
2 エリア10	水土保持機能を高めるための保育間伐作業を実施 間伐面積：63.87ha 間伐作業等に必要な林業専用道の整備を実施 延長:484m		
3 エリア5	保護林と保護林との間にある復元エリアのスギ・ヒノキ人工林を抜き切りし、かつての照葉樹林へ復元する作業を実施 間伐面積 1.59ha（2100ろ）		



間伐状況（2139林班）



林業専用道整備状況（2139林班）



間伐状況（2100林班）

事業名	復元見本林の設置（継続）	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3-2-③	連携先	NACS - J
事業概要 （目的）	綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおいて、復元見本林の設置を行う。		
照葉樹林への復元の見本となる見本林については、現時点で設置に至っていない。 今後も、林道沿い等、アクセス及び立地条件の良い箇所への設定について継続して検討していく。			

3 項目：照葉樹林の復元

事業名	照葉樹林復元ボランティア作業の実施 (継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3-3-①	連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	中尾国有林において、照葉樹林復元のための間伐作業を実施した。		

今回で 17 回目を迎える照葉樹林復元のためのボランティア間伐を、平成 27 年 11 月 28 日に宮崎県綾町中尾国有林 2045 に 4 林小班に設定しているボランティア用見本林において、昨年度に引き続きソーラーボランティア社（本社、宮崎・国富工場）の職員及び家族 28 人が参加し実施された。

天候にも恵まれ集合場所である綾町・川中キャンプ場において、開会式が行われ主催者を代表して崎野健輔宮崎森林管理署長が挨拶。その後、参加者全員で準備体操を行い作業地に移動し、宮崎森林管理署職員による間伐の実演及び安全指導を受け、森林管理局・署職員の指導の下、職場の仲間・家族と一緒に楽しく作業を行った。

参加した職員・家族は、間伐・玉切り作業が初めて、森林に入るのも初めての人が多く、伐倒したときの音に歓声が上がるとともに、林内に漂うヒノキの香りを楽しんでいた。

参加者からは「鋸を使うのは初めて。伐採作業ができるなんて、貴重な経験となりました」「この森を守ることにより、我々は地下水などの恩恵を受けている。今後もボランティアに参加し、森を守る活動を続けていきたい。」などの声が聞かれた。

なお、第 2 回を 2 月に計画していたところ、悪天候により 4 月に延期したところであったが、4 月も熊本地震により実施できなかったことから中止とした。



事業名	照葉樹林復元の間伐試行モニタリング等及び綾の照葉樹林プロジェクト管理計画書（案）の作成に係る業務（新規）	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	4-2-②	連携先	NACS - J
事業概要 （目的）	綾プロ復元エリアNo.5において、復元のための間伐試行モニタリング及びシカ生息密度等の調査及び綾プロエリア内の国有林について、管理計画書(案)の作成を実施。		
★平成24年度に設定した4プロット（10調査区）において、試行伐採（間伐）による実生の発生状況等及びシカ被害調査を実施。 ○実生全種の本数は、10調査区のうち7調査区で増加、3調査区で減少した。 ○照葉樹林型種の実生本数は、前年度と比較すると一部を除き増加した。 前年度と比較すると増加数が鈍化した調査区もあるが照葉樹林型種の実生本数は増加傾向にある。 ★復元エリアNo.5において、シカ生息密度調査を実施。 ○エリアNo.5において、14箇所の調査区（ベルトトランセクト）を設定し調査。 ○調査結果から生息密度を算出すると、エリアNo.5では17.27頭／km²となり、復元エリアNo.3・5・6の中で最も高い生息密度となった。 ★伐り置き残材が下層植生へ与える影響調査を実施。 ○実生個体の消失・加入については、残材あり区、残材なし区の両方において、消失個体と加入個体が確認された。消失本数も加入本数も残材なし区が多く、シカ被害等により消失する個体が多いものの、間伐による光環境の改善により加入個体数も多くなっている。 一方、残材あり区では、シカ食害等の攪乱の影響から逃れて消失本数が少ないものの、新規個体加入の機会が減少しているためか、加入個体数も少なくなっている。 加入個体数が少なくなった原因として、残材や枝条の大量配置による光環境の悪化が考えられる。 ○伐り置き残材の設置方法について ①残材の設置本数は、1㎡あたり3～4本以下になるよう設置する。 ②残材を積み上げる際は、枝葉も含めて40～60cm程度の高さでよい。 ③枝葉の過度な設置は、林床への光の到達を阻害する可能性があるため、林床一面を覆ってしまう置き方はしない。 との現時点での結果である。 ★綾の照葉樹林プロジェクト管理計画（案）の作成 ○綾プロの取組に沿った保全管理を推進するため国有林エリアにおける「管理計画書（案）」を作成した。			

5 項目：照葉樹林を通しての環境教育

事業名	(連携) 環境教育のための行動計画を策定 (継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	5-1-①	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	環境教育エリアの活用、また、環境教育実践のための基本方針を綾プロ内で決定する。		
平成26年12月に中間取りまとめが行われているが、最終的な基本方針の取りまとめが出来ていないことから、平成28年度において基本方針策定に向け取り組む。			

事業名	照葉樹林環境教育講座(継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	5-1-③	連携先	
事業概要 (目的)	綾小中学生に対する環境教育の実施		

■綾の自然についての講話

1 日 時：平成27年5月18日（月）

2 場 所：綾中学校

3 内 容：綾中学校1年生 50名に対し、宮崎や綾の自然（照葉樹林と里山）の紹介と、自然観察のポイントについて、講話を行った。

■綾の自然を学ぶ野外学習

1 日 時：平成27年6月4日（木）

2 場 所：照葉大吊橋・川中自然公園

3 内 容：綾中学校1年生を対象に、照葉大吊橋と川中自然公園にて、照葉樹林や生き物などの説明と自然観察を行った。生徒たちが今後行われる霧島での自然観察の際に、綾と比較ができることを考慮して、推進室で内容を計画した。




事業名	生涯学習講座(継続)	実施主体	綾町		
項目-行動計画- 実施項目	5-1-③	連携先			
事業概要 (目的)	町民を対象に照葉樹林文化を学ぶ講座を開設(教育委員会と連携)				
講座実施状況 6月から実施 延べ 205名参加					
回 数	日 程	参加人数	開催場所	内 容	講 師
第 1 回	6月9日 (火)	23名	千尋の滝周辺	植物観察	河野耕三
第 2 回	7月14日 (火)	27名	北麓周辺	植物観察・修験道の滝	河野耕三
第 3 回	8月11日 (火)	12名	尾谷川沿い	里の植物観察	河野円樹
第 4 回	9月8日 (火)	26名	茶臼岳林道	国富照葉樹林帯の林道散策	河野耕三
第 5 回	10月13日 (火)	23名	倉輪	秋の田園風景・植物観察	河野耕三
第 6 回	11月10日 (火)	19名	川中セラー基地	後藤宅跡・炭焼き釜跡紹介他	河野耕三
第 7 回	12月8日 (火)	15名	大口県有林	トレッキングコースを散策	河野耕三
第 8 回	1月12日 (火)	18名	役場周辺	里の植物や史跡・武家門等	河野耕三
第 9 回	2月9日 (火)	19名	上畑	森と里の境界の植物観察	河野耕三
第10回	3月8日 (火)	23名	古屋	植物観察・スミレ等	河野耕三

※ 上記の定期講座の他に、参加者を募り式部岳に登山した。

日程：4月29日（土）講師：河野耕三・河野円樹参加人数 7名





事業名	県有林造成事業（継続）	実施主体	宮崎県
項目-行動計画- 実施項目	5-2-②	連携先	
事業概要 （目的）	森林環境教育・保健休養的利用を図るとともに、人工林の針・広混交林化を進めるエリアにおいて、獣害防除及び遊歩道の整備（木製階段の施工）を実施した。		

1 獣害防除（忌避剤散布）

(1) 場 所

25世紀の森（カヤとスギの複層林）

(2) 面 積

3.23ha

(3) 時 期

2月～3月



忌避剤散布



カヤ植生状況

2 木製階段工（撤去・取替え）

(1) 場 所

25世紀の森（カヤとスギの複層林）

(2) 面積等

60段

(3) 時 期

2月～3月



5 項目：照葉樹林を通しての環境教育

事業名	遊歩道整備ボランティア作業(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目－行動計画－ 実施事項	5-2-②	連携先	宮崎県・綾町
事業概要 (目的)	照葉大吊橋付近の県有林遊歩道を整備し、新たな散策ルートとして活用する。		

◆実施日：3月2日（水） 9：00～13：00
参加者：3名（スタッフ3名）
その他：ボランティアで作業する場所、倒木の状況などを下見した。

◆実施日：3月11日（金） 9：30～13：30
参加者：12名（会員7名、一般1名、スタッフ4名）
その他：手ガマ、草刈り機、チェーンソーに分けて下草刈りをおこなった。
コナラみちから分岐を経て2本の尾根へ続く道の整備をした。
チェーンソーによる倒木の整理を2か所した。



手ガマで下草刈りを整理する



チェーンソーによる倒木整理

◆ 遊歩道の普及を図るため、遊歩道の場所が連想できる名称に変更した
（旧）照葉樹林トレッキングコース
（新）大口遊歩道 照葉樹林トレッキングコース

名称変更にともない、大看板や道案内看板を修正した。

事業名	会員情報	実施主体	てるはの森の会												
項目-行動計画- 実施項目	6－1－②	連携先	全												
事業概要 (目的)	官民協働プロジェクトを推進するため、市民参加の窓口としててるはの森の会会員へ入会を募集するほか、賛同者の寄付による参加を募集する。														
○正会員数　：H28.3.18現在 10名（内、理事5名） ○賛助会員数：H28.3.18現在 個人サポート会員　129件 法人サポート会員　23件 団体サポート会員　9件 ○会費収入：604,000円 ○寄付金収入：352,356円 <table><tr><td>てるは大吊橋募金箱</td><td>38,184</td></tr><tr><td>イベント等募金・寄付</td><td>20,577</td></tr><tr><td>企業・団体寄付</td><td>395</td></tr><tr><td>個人寄付</td><td>243,200</td></tr><tr><td>賞金</td><td>50,000</td></tr><tr><td>計</td><td>352,356</td></tr></table> ※正会員寄付含む ※生物多様性アクション大賞				てるは大吊橋募金箱	38,184	イベント等募金・寄付	20,577	企業・団体寄付	395	個人寄付	243,200	賞金	50,000	計	352,356
てるは大吊橋募金箱	38,184														
イベント等募金・寄付	20,577														
企業・団体寄付	395														
個人寄付	243,200														
賞金	50,000														
計	352,356														

事業名	市民参加による自然林の復元調査及び 自然林の調査(継続)	実施主体	NACS-J
項目-行動計画- 実施項目	6 - 1 - ③	連携先	九州森林管理局 てるはの森の会 綾町
事業概要 (目的)	自然林調査、林床植生調査、データロガーのメンテナンス 間伐前後の林床植生をボランティアの方とともに調査を行い、復元の状況を把握 するとともに参加している方々が復元の状況を確認し、今後の方針などを検討する ための基礎資料とする。		

林床調査は間伐前の2015年11月29日に実施し、ボランティアの市民が11名（うち4名スタッフ）参加した。調査は第6回（2010年11月27日）と第18回（2015年11月29日）に実施した場所で行った。

その結果、2010年は伐採前に調査を実施した。全体の種数は37種から45種に増加した。実生の個体数も109個体から154個体に増加した。出現した種をC：針葉樹、ET：常緑高木、ES：常緑低木、DT：落葉高木、DS：落葉低木、TL：木本性ツル植物、H：草本植物、HL：草本性ツル植物、F：シダ植物という10種類の生活形ごとに分類した。大きく変化したのは、スギやモミという針葉樹が加入したこと、草本植物の種数が増加したことがあげられる。

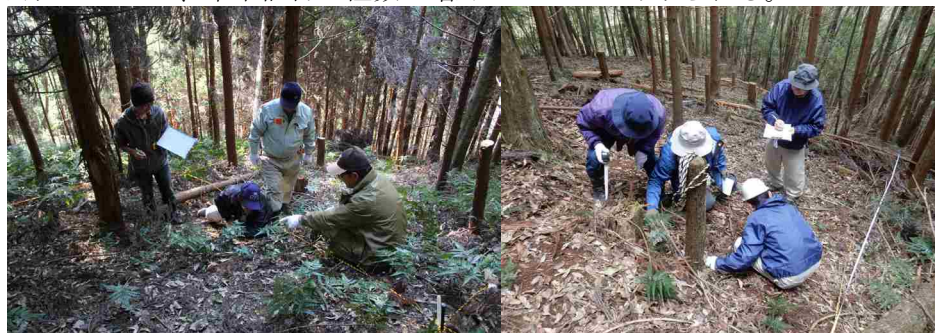


写真 2010 年 11 月 27 日林床調査（左）と 2015 年 11 月 29 日の調査

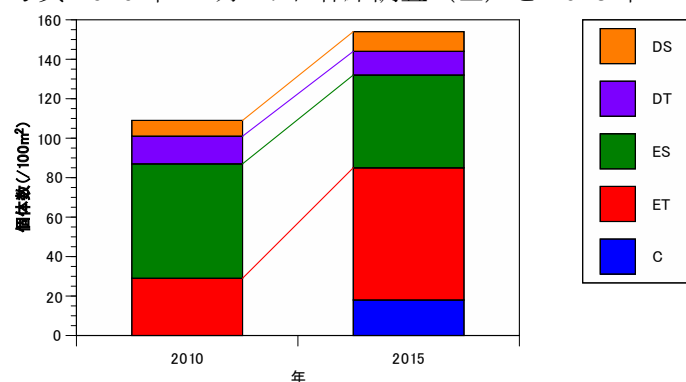


図 2010 年と 2015 年の生活形ごとの個体数の変化

C：針葉樹、ET：常緑高木、ES：常緑低木、DT：落葉高木、DS：落葉低木

事業名	綾プロ 10 周年記念行事(記念誌)の作成 (新規)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	6-2-①	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	綾プロ協定締結 10 周年を迎え、各機関におけるこれまでの取組等について記念誌を作成した。		

綾プロ協定締結から10年を迎え、この間の各種取組の記録と成果、そしてこれからの綾プロの取組に役立てるため記念誌「綾の照葉樹林プロジェクト 10年の歩み」を1,000部作成した。

記念誌は、9月5日に開催した「記念フォーラム」において、参加者全員に配布した。

内容は、第1章として綾プロが発足した経緯や、協働体制等について協働5者の思い。第2章として綾の照葉樹林及び綾プロの内容について記載。第3章として綾プロエリア内における保護林・エコパーク等についての記載。第4章としてこれまでの綾プロでの各種活動について報告。第5章では今まで綾プロに関わってこられた方々の思いを綴った冊子であり、全82ページで構成されている。

企画・編集にあたっては、綾プロ 10 周年記念誌編集委員会をつくりおこなわれた。



6 項目：プロジェクトの情報発信

事業名	ホームページ等による情報発信 (継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	6-2-③	連携先	
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトでの取組について、局ホームページ等に掲載し広く情報を発信する。		
○九州森林管理局のホームページに平成27年度までの各種取り組みについて掲載し、情報を発信した。 http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/aya/torikumi.html ○九州森林管理局で発行している広報誌「広報 九州」にも、各種会議、イベント等を掲載し、情報発信した。 http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/koho/koho_si/koho_kyusyu/index.html			

事業名	普及啓発事業(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画-実施項目	6-2-③	連携先	全
事業概要 (目的)	ホームページの更新やニュースレターの発行、イベントでの展示ブース出展等の広報活動を行なう。 ホームページ上にて報告書を掲載。		

○広報誌「照葉樹林だより」の発行

- ・第 42 号 6 月 20 日発行：
研究「アカガシと周辺のコケウォッチング」
- ・第 43 号 10 月 20 日発行：
特集「綾の照葉樹林プロジェクト 10 周年」
- ・第 44 号 12 月 20 日発行：
特集「ナラ枯れ問題」
- ・第 45 号 3 月 31 日発行：
特集「てるはの森の会 10 周年」

○木づかい体験

イベント
ブース出展
(7 月 25 日)
・綾プロ 10 周年
記念関連
イベント



○てるはの森の会のホームページ

<http://teruhanomori.com/>

○てるはの森の会 facebook での情報発信

○赤谷プロジェクト事業説明会
ブース出展 (11 月 8 日)

○生物多様性アクション大賞

「つたえよう」部門優秀賞受賞

国連生物多様性の 10 年日本委員会主催



6 項目：プロジェクトの情報発信

事業名	(連携) 綾プロ設立 10 周年事業 (新規)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	6-2-④	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	10 周年記念行事を行い、広く一般にプロジェクトの内容を知ってもらい、会員の拡大を図る。		

【5月17日】

○「新緑の綾の森へ行こう」の開催

綾町内外より約50名が参加して、10周年記念イベントを開催。参加者は大森岳林道コース・県有林遊歩道コースに分かれてガイドの説明のもと綾の照葉樹林を散策した。

昼食では、シシ汁とおにぎりのふるまいが行われ、その後、綾の照葉大吊り橋広場において、語り部による綾にまつわる昔話が披露され、綾プロの存在をアピールすることができた。



大森岳コース



県有林コース



ふるまい



語り部による昔話

【9月5日】

○「10周年記念フォーラム」の開催

内容は九州森林管理局の事業で報告

○「10周年記念誌」の発行

内容は九州森林管理局の事業で報告

事業名	綾プロ 10 周年記念行事(フォーラム)の開催 (新規)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	6-2-④	連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	綾プロ協定締結 10 周年を迎え、記念フォーラムを開催した。		

このプロジェクトにおける 10 年間の検証と今後の展望について、地域住民の方々と交え意見交換を行うとともに、本プロジェクトに対する一層の理解を深めることにより、今後のプロジェクトの推進を図ることを目的に、「綾の森が歩んだ 10 年、これからの 10 年」と題し、記念フォーラムを 9 月 5 日に綾町の高年者研修センターにおいて約 190 名が参加の中、開催された。

フォーラムの第一部として九州局の中山業務管理官、宮崎県の内田欽也副知事の挨拶のあと、崎野宮崎森林管理署長による綾プロの概要及び各種取組について報告、及び綾プロと兄弟プロジェクトと言われる、関東森林管理局での「赤谷プロジェクト」の取組等について、赤谷森林ふれあい推進センターの藤澤将志所長による基調報告が行われた。

第二部では、地域住民の方々からの質問や提案を通して今後の綾プロの在り方や、いかに地域に根ざした活動としていくのか考えるため、綾町民 5 名、綾プロ協定者 5 名による、「綾プロの 10 年 そこが聞きたい これが言いたい」と題したパネルディスカッションを開催した。

この中では、「綾プロの活動を通じて、町民が綾の良さに気づくことができた」「綾プロの町内への浸透をもっと図るべき」など色々な意見を聞くことができた。

最後に日本自然保護協会の亀山章理事長、綾町の前田穰町長の挨拶により閉会となった。



6 項目：プロジェクトの情報発信

事業名	照葉樹林文化シンポジウム運営補助 (継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	6-2-④	連携先	綾の自然と文化を 考える会
事業概要 (目的)	実行委員会への補助		

【第21回 照葉樹林文化シンポジウム】

日 時 平成28年2月14日（日）午後1時～午後5時30分 交流会 午後6時～
場 所 高年者研修センター
参加人数 約40名

開会挨拶	シンポジウム実行委員長 郷田美紀子 綾町長 前田穰
神事	綾神楽奉納
基調講演	「森があって神楽があったⅡ」 三上敏視氏 「神楽ビデオジョッキー 森の神楽への招待」 ビデオを上映しながら、各地の神楽の紹介があった。 高見乾司氏による基調講演 「綾神楽復元への旅」 ・今年で連続3回目の講演。33番からなる神楽の構成について、 各地の具体例をあげながら、説明が行われた。



1曲残っている綾神楽



三上氏の講演

事業名	事業説明会の開催 (継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	6-2-⑤	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	綾町町民等を対象に事業説明会を開催し、各機関での取組を説明する。		

綾町民を対象に毎年開催している、綾プロの事業説明会を2月14日の「綾町公民館大会」に合わせて実施した。

当日は、綾町公民館ホールに約600名が参加する中、宮崎森林管理署より「綾プロの10年間の取組と成果」について報告がなされるとともに、綾プロ主催で5月21日に開催予定である「綾・照葉樹林ロングウォーキング」への案内が綾町よりなされ、多くの町民へ参加を呼び掛けた。



6 項目：プロジェクトの情報発信

事業名	環境学習事業 照葉樹林ガイドボランティア事業補助 (継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画 -実施項目	6－3－①	連携先	綾町
事業概要 (目的)	大吊橋周辺遊歩道などで照葉樹林の貴重さや綾プロを普及させるため、照葉樹林ガイドボランティア実践活動やプロジェクトの視察対応、広報活動を行う。		

① 照葉樹林ガイドボランティア実践活動

綾町照葉樹林の代表的景勝地大吊り橋周辺遊歩道2kmをボランティアガイドの案内で散策する。

参加者合計 13回 226名

実施月	実施回数	参加者数	実施月	実施回数	参加者数	実施月	実施回数	参加者数
4月	1回	1名	8月	なし	－	12月	1回	8名
5月	2回	37名	9月	2回	6名	1月	なし	－
6月	なし	－	10月	3回	61名	2月	なし	－
7月	なし	－	11月	2回	33名	3月	2回	80名

・上畑体験ツアーを12月5日、1月8日に実施した。

参加者は28名

・ガイドスキルアップ研修を1回実施した。

参加者は4名

② 視察対応

計 5回

9月15日	火	金沢大学(香坂)
10月25日	土	ジオパーク
11月21日	土	イオン木育視察
12月10日	木	宮崎大学学生 ガイド聞き取り
12月14日	月	国土交通省

③ 広報

下記を含む 計 7回

7月25日	土	木づかい体験イベント出店	綾町
9月8日	火	E S D事業説明会	福岡
9月5日	土	10周年記念フォーラムブース	綾町
11月6日～9日		赤谷プロジェクトブース出展	群馬県
12月12日	土	生物多様性アクション大賞優秀賞	東京
12月6日	日	テレビ宮崎 クリーンアップ作戦	綾町
2月9日	火	NHKインタビュー	綾町

事業名	森林セラピー基地整備事業(継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	6-4-①	連携先	
事業概要 (目的)	森林セラピー推進協議会で、ロードの整備、案内人の募集・養成を行う		
① 森林セラピーガイド 森林セラピーガイドを 11 回、161 人に対して行った。 現在ガイドは 21 人が登録している。 ガイド連絡会を 5 回、川中の草刈りを 1 回実施。 ② 森林セラピー関係機関会議 ○全国ネットワーク会議 会員 51 団体 ・総会(東京) 7 月 9 日 綾町は理事 ○九州・沖縄ネットワーク会議 会員 11 団体 ・総会(福岡県篠栗町) 5 月 27 日 ・担当者会(基地持ち回り) 3 回(福岡県豊前市、沖縄県国頭村、宮崎県綾町) ・イベント 「森コン」鹿児島県霧島市で開催 ※森林セラピー基地を活用した婚活イベント ③ コース等整備 新規コース設定なし。川中コースとまちなかコースをうまく利用し、梅雨時期から夏場、台風シーズンには、町内業者にコースの巡回と補修箇所があれば補修をお願いしている。 ※綾町の森林セラピー事務局を、平成 28 年度からユネスコエコパーク推進室とした。 (平成 19 年度の協議会設立から 27 年度まで農林振興課が担当してきた。)			

7 項目：照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	地域づくりワーキングの設置と運営 事業補助(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画- 実施項目	7-1-①	連携先	綾町
事業概要 (目的)	地域づくりWGは、綾プロジェクトの推進体制や当プロジェクトを活用した地域振興等に関する事項を検討し、住民参加を促すことを目的とする。		
平成 24 年より綾町の地域自然調査 (MAP づくり) を進め、綾里歩き「ひやらひや一つウォーク」と名付け活動を引き続きおこなった。3 コースのパンフレットの修正・検討を重ね、実施方法の検討、提案も行った。また綾里ガイド養成講座を開講し意見交換やガイド研修を受けた。 また、小さな町で地域おこしに頑張っている「西米良村」を訪れ、温泉施設「ゆた〜と」や飲食店「小川作小屋」を視察し、地域の人と意見交換を行う、視察研修を実施した。			
	日 程	講 座 内 容	参 加 人数
1	H27.6 月 17 日(水) 19:00~21:00	綾ひやらひや一つ ウォークについて 西米良村視察報告 今後の進め方	11 人
2	H27.7 月 15 日(水) 19:00~21:00	綾ひやらひや一つ ウォークについて 今年度の進め方	6 人
3	H27.8 月 19 日(水) 19:00~21:00	綾ひやらひや一つ ウォークについて 今年度の進め方	6 名
4	H27.9 月 30 日(水) 19:00~21:00	綾ひやらひや一つ ウォークについて 視察について	6 名
5	H27.10 月 30 日(金)~31 日 (土)	西米良村視察	10 名
6	H28.1 月 19 日(火) 18:30~19:00	綾ひやらひや一つ ウォークについて 今後の進め方	8 名
7	H28. 2 月 16 日 (火) 19:00~21:00	綾ひやらひや一つ ウォークについて 綾ひやらひや一つ ウォーク看板について 来年度の地域づくりWGの進め方、人選について 地図について	7 名
8	H28. 3 月 24 日 (木)	来年度の地域づくりWGの進め方、人選について	10 名

事業名	照葉大吊橋森の驛運営事業	実施主体	てるはの森の会・
項目-行動計画 -実施項目	7-1-②	連携先	綾町
事業概要 (目的)	照葉大吊橋食堂跡地において、「てるは森の驛」(1F:無料休憩所、照葉樹林に関するビデオコーナーやパネル等を展示、2F:木のおもちゃで遊べる木育体験コーナー、3F:飲食物を提供する軽食堂)を運営する。		

○3F: 飲食物を提供する軽食堂「てるは森の驛」

○2F: 木育広場として活用



食堂のようす



木育広場

○1F: 森の紹介ビデオコーナー



ビデオコーナー

7 項目：照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	ふれあい調査(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画- 実施項目	7-1-③	連携先	綾町
事業概要 (目的)	地域の人たちと自然とのふれあい(土地の自然に対する思い、生活での自然との かかわり、照葉樹林とのかかわり等)を調べることで、地域の自然とくらし、文化、歴 史など地域の価値を再発見する。これを照葉樹林プロジェクトにおける資料として 活用し、人々の思いを大切にしながら、住民参加のもと、照葉樹林の保護・復元 を進めるものである。		

平成 27 年度は、全 21 回におよび検討会や現地調査、聞き取り調査をおこなった。綾森林鉄道綾南線について、沿線沿いに住む人の暮らしについて、多くの聞き取り情報を得ることができた。その中から川中自然公園を中心にして、マップつき冊子を取りまとめた。『綾町・金峰山 川中嶽 照葉の森が育む山のくらし』と題した本冊子は、山のくらし、信仰、林業の 3 つにテーマを絞りまとめた。

事業後半では、川中製材所跡地の測量に入り、製材所の平面図と従業員が住んでいたと思われる住居跡の位置関係を図面におこすことができた。

また、上畑地区の聞き取り記録集をまとめた。





7 項目：照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	綾町森林・林業関係検討会 「綾プロ 自然と共生する地域づくり 支援事業」(新規)	実施主体	九州森林管理局 (宮崎森林管理署)
項目-行動計画- 実施項目	7-3-①	連携先	綾町 宮崎県
事業概要 (目的)	綾プロの保全管理計画との連携の中で、綾町の計画について綾プロの林業関係者が検討する。		

綾町の森林・林業関係者が綾BRの推進において、それぞれ果たすべき役割、責任を確認しつつ、課題を共有し課題解決に共に取り組むため、宮崎森林管理署が事務局となり、綾町の森林・林業に関する検討会が実施されている。

綾プロエリアだけでなく、綾町一帯の森林計画策定にとって重要な取り組みであるため、ここに記録する。

名 称：綾町森林・林業関係検討会

主 催：宮崎森林管理署

参加組織：綾町(農林振興課、ユネスコエコパーク推進室)・宮崎中央森林組合
宮崎県中部農林振興局林務課

実施概要：第1回 5月18日 綾ユネスコエコパークの概要について確認

第2回 6月2日 綾町森林整備計画及び森林経営計画の制度・規制の内容確認

第3回 7月7日 綾町森林整備計画のゾーニング設定

第4回 8月6日 伐採後の再造林不履行など伐採跡地の放置の存在とその増加について

第5回 10月16日 伐採後の再造林不履行に対する解決策について論議

第6回 11月24日 市町村森林整備計画のゾーニング、企業参加の森林整備の事例

第7回 1月14日 「照葉樹林」の語句の整理、森林整備計画に関する県の指導手順



事業名	ユネスコ エコパークとの連携(継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	7-3-①	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	綾ユネスコ エコパークと連携することで、綾プロの認知度を高め、活動を活性化 する。		

■綾ユネスコエコパーク（BR）推進の根幹となる協議会等の運営

平成 27 年 4 月 綾 BR 専門委員会、まちづくり協議会、綾プロなどの代表者からなり、綾 BR の総合的管理運営について意見交換する「綾 BR 地域連携協議会」を発足した。

平成 27 年 9 月 具体的な綾 BR 推進計画を策定する 3 部会（生物多様性保全・調査教育・地域づくり）及び各課課長で構成され、各種部会の意見を集約し、町として推進していく「綾 BR 運営会議」を立ち上げ、持続的な地域づくりの運営体制を構築した。

平成 27 年 12 月/3 月 第 4・5 回 綾 BR 専門委員会を開催した。

平成 27 年 7 月～平成 28 年 3 月 まちづくり協議会のワーキングを実施。



<綾 BR 地域連携協議会>



<綾 BR 運営会議及び 3 部会>

■綾ユネスコ エコパーク年間活動 平成 27 年度活動実績 197 日 225 件

前年度、只見と南アルプスがユネスコエコパークに登録されて落ち着きを取り戻し、取材対応は減少したが、視察対応や講演等の実施は増加した。（ ）内は綾プロ関連の件数。

1 視察・外部対応	42 件（31 件）
2 講義及び講演等の実施	36 件（11 件）
3 シンポジウム・イベント等の開催	13 件（5 件）
4 取材対応	3 件（2 件）
5 調査・作業	34 件（17 件）
6 会議・下見・打合せ等	97 件（31 件）

7 項目：照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	綾ユネスコエコパーク専門委員会、地域連携協議会への出席。綾町ユネスコエコパーク運営会議における実施計画策定支援(新規)	実施主体	NACS-J
項目-行動計画-実施項目	7-3-①	連携先	綾町
事業概要 (目的)	綾ユネスコエコパークの各種委員会に出席し、よりよい保全管理計画策定に向けてアドバイスをを行う。綾生物多様性地域戦略実施計画支援事業において他のユネスコエコパークにおける教育支援施設の運営状況を把握すること。		

各ユネスコエコパーク事務局にアンケートを送付したところ 13 施設について回答を得た。施設の概要について表に示す。白山ユネスコエコパークは、8 施設に関して回答を得た。最も古い施設は 1954 年に設置された志賀高原 BR の信州大学教育学部志賀自然教育施設であり、最も新しい施設としては、2012 年に設置された白山 BR の白山平泉寺歴史探遊館まほろばがある。全体として 1970 年以降に設立された施設が多く、うち 7 件は設立から 20 年以上が経過している。

施設ごとのスタッフ数は、臨時職員（嘱託職員を含む）を別にカウントしている。最大人数は屋久杉自然館の 13 人であり、最少人数は白山文化博物館の 2 人である。13 施設全体の平均スタッフ数は 6.5 人であり、平均以上の施設は 6 施設だった。ただし、白山 BR の施設はアンケートでは回答がなかったが、臨時職員を含む可能性があるので臨時職員数は参考値である。

綾ユネスコエコパークを含めた 7 つのユネスコエコパークのうち、研究教育拠点施設をもたないのは綾ユネスコエコパークのみである事を指摘した。

表 ユネスコエコパークごとの研究教育拠点施設と概要

ID	ユネスコエコパーク	名称	管理	設立年	年代	スタッフ人数	正職員数	うち臨時職員(嘱託含む)	予算	備考
1	南アルプス市	南アルプス市立南アルプス芦安山岳館	南アルプス市	2003	2000	3	1	2	10,470,000	
2	只見	ただみ・ブナと川のミュージアム	只見町	2010	2000	10	4	6	50,000,000	
3	白山	石川県立白山ろく民俗資料館	石川県	1979	1970	9	5	4	18,000,000	
4		石川県白山自然保護センター	石川県	1973	1970	11	11	0	143,504,000	
5		ブナオ山観察舎	石川県	1981	1980	3	3	0		
6		市ノ瀬ビジターセンター	石川県	2000	1990	3	3	0		
7		中宮展示館	石川県	1973	1970	4	4	0		
8		白山文化博物館	岐阜県郡上市	1997	1990	2	2	0	8,400,000	
9		福井県自然保護センター	福井県	1990	1980	9	7	2	45,000,000	
10		白山平泉寺歴史探遊館まほろば	福井県勝山市	2012	2010	3	3	0	11,000,000	
11	屋久島(・口永良部)	屋久島町屋久杉自然館	屋久島町	1989	1980	13	9	4	34,000,000	
12	大台ヶ原大峯山(・大杉谷)	大台ヶ原ビジターセンター	環境省	1992	1990	12	2	10	40,000,000	
13	志賀高原	信州大学教育学部 志賀自然教育研究施設	信州大学	1954	1950	3	3	0	0	不明

事業名	綾生物多様性地域戦略 実践支援事業 (新規)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	8-1-③	連携先	NACS-J
事業概要 (目的)	綾生物多様性地域戦略の内容を実際に実施していくための綾町内での活動を委託する		

■綾プロエリア内林床植生調査

日本自然保護協会、林床調査ボランティア、綾町ユネスコエコパーク推進室と連携し、綾プロエリア内で実施している林床植生の調査を継続して実施。過去の調査結果との比較から林床植生の組成の違いを明らかにした。

・ 日 時：2015 年 11 月 29 日

・ 参加者：11 名（うち 4 名スタッフ）




■生物多様性地域戦略実施支援

平成 26 年度に策定した生物多様性地域戦略の内容を実践するにあたり、日本自然保護協会から助言を受け、綾ユネスコエコパーク管理運営計画との整合性をはかる上で留意すべき点等についてとりまとめた。

■情報収集

国内外のユネスコエコパークや自然環境保全管理計画に関する情報を収集した。

平成27年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連文献一覧

タイトル	発行者	発行年	事務局／執筆者	雑誌	種類	HP上での公開/非公開	公開しているHP名
照葉樹林だより第42号～45号	(一社) てるはの森の会	平成27年6月 ～28年3月	2015 ～2016		会報	公開	てるはの森の会
綾の照葉樹林プロジェクト平成26年度事業報告 (別冊 新聞記事集)	綾の照葉樹林プロジェクト 連携会議	平成27年6月	2015		事業報告	公開	てるはの森の会
綾ユネスコエコパークに至るまでの綾町における地域づくりの歴史調査報告書	綾町	平成27年7月	2015		冊子	非公開	—
10周年記念誌「綾の照葉樹林プロジェクト10年の歩み」	九州森林管理局	平成27年9月5日	2015		事業報告	非公開	—
綾町・金峰山 川中嶽 照葉の森が育む山のくらし	(一社) てるはの森の会	平成28年3月	2016		冊子	非公開	—
「綾町上畑」記録版 語り部 聞き書き集	(一社) てるはの森の会	平成28年3月	2016		冊子	非公開	—
平成27年度 照葉樹林復元の間伐試行伐採モニタリング等及び綾の照葉樹林プロジェクト管理計画書(仮称)案の作成に係る業務	九州森林管理局	平成28年3月	2016		基礎調査	公開	九州森林管理局
ユネスコエコパーク登録後の宮崎県綾町の動向～世界が目指すモデル地域～	日本生態学会誌	平成28年3月	2016	日本生態学会誌 66 : 121-134	論文	非公開	—
平成27年度 綾生物多様性地域戦略実施計画支援事業報告書 照葉樹林文化を考える 綾シンポジウム要旨集	綾町	平成28年3月	2016		報告書	非公開	—
綾ユネスコエコパーク 綾町散策まっぶ(日本語・韓国語)	綾町	平成28年3月	2016		冊子	非公開	—
	綾町	平成28年3月	2016		パンフレット	公開	綾町役場

1. 【What! 祖母傾山系周辺地域 エコパーク 上】

2015年4月8日(水) 夕刊 テイリー

What! 祖母傾山系周辺地域 エコパーク

高崎、大分県にまたがる祖母傾山系周辺地域の「ユネスコエコパーク」登録に向け、西原と延岡市、高千穂町、日之影町など関係6市町が連携して申請準備を進めている。今年8月末までにユネスコ国内委員会に申請概要を提出、最遅で平成29年5、7月に開かれるユネスコ人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会での登録を目指す。ユネスコエコパークとは何か、地域にどんなメリットがあるのか。平成24年7月、国内では32年ぶりに登録された綾町を取材した。

「綾町役場から約15分。綾ユネスコエコパークの「核心地域」(6882ha)に当たるのが大吊橋対岸から奥に広がる照葉樹林。エコパ

先進地・綾町
照葉樹林保護が原点
国際的発信力高まる

1976年から登録開始。

延岡市で講演する河野専門監
(九保大)

高度成長期に持ち上がった照葉樹林の伐採計画に反対、自然林の保護を前面に掲げたまちづくりへと町政の舵を切った。自然との共生を目指して化学肥料や農薬の使用を抑えた有機農業を推進。「自然を守る条例」照葉樹林都市宣言

「言」と続く一言した政策は、「生態系の保全と持続可能な利用の両立を目的としたユネスコエコパークの精神を先取りした取り組みだった(河野専門監)」。前町長の思いは平成2年に就任した前田穂町長にも引き継がれた。17年には、人工林で分断された照葉樹の森を本来の姿に復元する官民一体の「綾の照葉樹林プロジェクト」が始動。半世紀にわたって積み上げた照葉樹林保護の実績は、国や県の力を借りない自治体主導の「エコパーク登録へとつながる。自然研究、教育分野の体制をつくり、人材を任まわせる環境づくりが必要」と課題も口にする。

照葉大吊橋から見た照葉樹林。対岸奥がエコパークの核心地域となる

「綾町は、綾町の照葉樹林を核に西部、小林市など5市町村にまたがる総面積1万4580ha。県内で2カ所目の登録を目指す祖母傾山系周辺地域については「県が登録に関わることで、国も協力的な雰囲気ができる。登録後は山岳地帯の観光、地

域づくりに関する整備が一気に進む可能性もある」とする一方、「自治体の知恵が必要。6市町の寄り合い所帯だけに、真剣に考えないと10年後に登録取り消しの憂き目にあう可能性もある」と指摘。「自覚と覚悟と努力が必要」と強調する。

「大崩山は一切伐採したことがない九州で唯一の自然林。この宝物を従来と同じ価値観で売り出し、地域にお金をといる発想を抱いたら終わり。あくまで周辺を利用し、宝は本物に戻すことが肝心。そう訴える。ユネスコエコパークユネスコ(国連教育科学文化機関)が昭和51年に設けた制度。昨年6月現在で119カ国631地域が登録されている。綾ユネスコエコパークは、綾町の照葉樹林を核に西部、小林市など5市町村にまたがる総面積1万4580ha。

2. 【エコパーク事業推進 綾 学識経験者らで連携協】

宮崎日日新聞

2015年(平成27年)4月11日 土曜日

エコパーク事業推進

綾 学識経験者らで連携協



エコパーク推進に向けた今後の取り組みを話し合った綾ユネスコエコパーク地域連携協議会の第1回会合

綾ユネスコエコパークを推進する「綾ユネスコエコパーク地域連携協議会」が10日、発足した。第1回会合は綾町役場であり、学識経験者や町職員など約30人が出席。今後の

運営方針などを話し合った。会に先立ち、前田穰町長が「2012年に綾がエコパークに登録されてから3年目を迎える。それぞれの立場で専門的な意見を頂きたい」とあいさつ。会長に前田町長を選任したほか、学識経験者など15人のメンバーに委員の委嘱状を交付した。同協議会事務局の町ユネスコエコパーク推進室は、今後の組織運営などを報告。町が主体となつて、生物多様性の保全や地域づくりなどに取り組み新たな組織を9月ごろに設立することを提案した。委員からは「横の団体同士の情

報共有が重要」「組織の持続性も考える必要がある」といった意見が出た。同協議会は今後、官民一体で照葉樹林の保護復元を図る「綾の照葉樹林プロジェクト」や、新組織などの間に入つて事業調整や情報の共有などに携わる。

宮崎日日新聞 2015 年 4 月 11 日

3. 【新緑 雨に映える 綾照葉樹林 きょう「みどりの日」】

新緑の季節を迎え、県内最大規模を誇る綾町の照葉樹林は、鮮やかな緑に包まれている。3日は九州西海上から大陸にかけて延びる前線の影響で雨となったが、豊かな自然を満喫しようと、県内外から多くの観光客が訪れた。4日は「みどりの日」。

カシやタブ、シイなどが群生する照葉樹林はこの時期、木々の若葉が茂り、森全体が盛り上がったように見える。同町南側の照葉大吊橋付近では、緑や黄緑、赤茶色などの

新緑の季節を迎え、県内最大規模を誇る綾町の照葉樹林は、鮮やかな緑に包まれている。3日は九州西海上から大陸にかけて延びる前線の影響で雨となったが、豊かな自然を満喫しようと、県内外から多くの観光客が訪れた。4日は「みどりの日」。

カシやタブ、シイなどが群生する照葉樹林はこの時期、木々の若葉が茂り、森全体が盛り上がったように見える。同町南側の照葉大吊橋付近では、緑や黄緑、赤茶色などの

新緑 雨に映える
綾・照葉樹林
きょう「みどりの日」

若葉が、山肌をモザイク模様
に彩っている。訪れた人々は
橋を渡って、霧の間から広がる
新緑を背景に記念撮影する
などして楽しんでいた。

家族4人で訪れた三重県四
日市市、会社員川合眞晴さん
(58)は「あいにくの天気だが、
雨の中の緑もきれいで幻想
的だった」と話していた。

宮崎地方気象台によると、
連休後半の4日からは高気圧
に覆われて晴れる日が多く、
気温は平年より高くなるとい
う。



若葉が生い茂る綾町の照葉樹林。雨にもかかわらず、多くの観光客が訪れた
＝3日午前、綾町

宮崎日日新聞 2015 年 5 月 4 日

4. 【「新緑の綾の森へ行こう」参加者】

◇「新緑の綾の森へ行こう」
参加者 官民一体で照葉樹林
を保護・復元する「綾の照葉
樹林プロジェクト」主催。17
日午前8時半、同町公民館文
化ホール駐車場に集合。照葉
大吊橋の南側の県有林遊歩道
コース(約2・2キロ)を約2
時間かけて散策する。定員20
人で参加費は千円(バス、昼
食、保険代含む)。15日締め
切り。「てるはの森の会」☎
0985(35)7288。

宮崎日日新聞 2015 年 5 月 10 日

5. 【照葉樹林テーマ 写真作品を募集】

照葉樹林テーマ
写真作品を募集
綾、てるはの森の会
照葉樹林の保全活動などを
行う「てるはの森の会」(宮
崎市、河野耕三代表理事)は
県内の照葉樹林を写し撮った
写真作品を募っている。31日
締め切り(※日消印有効)。

受賞作は同会が全国の会員
や研究者など向けに発行して
いる会報誌「照葉樹林だよ
り」(年4回)の表紙に掲載
される。受賞者には綾町内で
使用できる商品券(千円分)
などが贈られる。作品は2エ
判(カラー、モノクロどちら
でも可)で、データでの応募
もできる。

住所、氏名、年齢、電話番
号、電子メールアドレスのほ
か、作品タイトルやコメント
(100字以内)、撮影日や
場所を書いて〒880-0000
14、宮崎市鶴島2の9の
6、みやきNPOハウス4
03号、同会事務局まで。
問い合わせは同会☎098
5(35)7288。

宮崎日日新聞 2015 年 5 月 12 日

6. 【綾の照葉樹林プロジェクト 設立 10 年 記念の散策】

**綾の照葉樹林プロジェクト
設立10年 記念の散策**

官民一体で照葉樹林の保護・復元に取り組む「綾の照葉樹林プロジェクト」は設立10周年を迎え、17日に綾町で記念イベントを行った。参加者約60人が森を散策したほか、交流会を開き、節目を祝った。

散策は、参加者が二手に分かれそれぞれ約2.5kmの森歩きを楽しんだ。このうち、照葉大吊橋南側の県有林を歩く「ス（約2・2km）では、ヤブツバキやタブノキといった植物を紹介するボランティアガイドの説明や、野鳥の鳴き声に耳を傾けながら約2時間かけて歩いた。

宮崎市高岡町下倉永、小学校教諭萬福和代さん（52）は「自然や鳥の声を楽しみながら歩くことができて気持ちよかったです」と話していた。

綾の森を散策しながら魅力を体感する参加者



散策後は前田穰町長や河野知事も加わり、大吊橋前で交流会。振る舞われたシン汁を食べながら交流した。プロジェクトは、夏から秋にかけて、子ども向け木育イベントや記念式典開催を予定している。プロジェクトは、人工林で分断された照葉樹の森を100年かけて復元する取り組み。2005年5月、九州森林管理局、県、綾町、日本自然保護協会、てるはの森の会の5者が調印した。

宮崎日日新聞 2015 年 5 月 19 日

7. 【鬼の洗濯板】

人工林で分断された照葉樹の森の復元を100年かけて目指すが、壮大な計画はびんここないという人もいると思う。それならまず森を見てほしい。記者の歩いたコースは照葉大吊橋施設内に入り口があり、少し歩けば雄大な自然を味わえる。プロジェクトの意義を肌で感じるため、ぜひ一度足を運んでほしい。（仁）

綾町にとって「国家百年の計」を担う存在だろう。官民5者が連携し、照葉樹の森を保護・復元する「綾照葉樹林プロジェクト」が設立10周年を迎え、記念に行われた森の散策に参加した。森の中を歩くと、鳥のさえずりや木々の間から流れる風を感じることができ、心身ともにリフレッシュできた。プロジェクトは

鬼の洗濯板

宮崎日日新聞 2015 年 5 月 22 日

8. 【綾の巨樹 魅力知って 写真や散策コース紹介】

日付: 2015.6.6

綾の巨樹魅力知って

写真や散策コース紹介

ふれあい館

「綾の巨樹展」が、綾町南俣の綾ふれあい館で開かれている。町内にある18本の巨樹の写真のほか、巨樹を巡る散策コースの地図を展示。入場無料で19日まで。

綾の里山や名所を巡る生涯学習講座を受けた同館職員の富永純子さん(36)が、町内に

は多くの巨樹があることを知り、今年4月から町内を回って写真を撮り集めた。

会場には、富永さんがおすすめする七つの散策コースを写真付きで紹介。

照葉大吊橋駐車場裏から尾根沿いに整備された遊歩道コースでは、スダジイ(幹回り約4・1㍎)やイヌノキ(同約2・9㍎)といった照葉樹を見ることが出来る。また、綾国際ク

綾の巨樹を巡る散策コースを集めた「綾の巨樹展」

ラフトの城周辺に整備されたセラピーコースには、推定樹齢約650年で、県の巨樹百選に選ばれているイチイガシ(同約6・3㍎)などもある。

富永さんは「山の中にそびえる巨樹はオーラがある。ただ、山には危険な動植物もいるので注意して散策してほしい」と話している。

午前8時半～午後6時(最終日は正午まで)。問い合わせは同館 ☎0985(30)7270。

宮崎日日新聞 2015 年 6 月 6 日

9. 【かさ表に孢子 新種キノコ 綾照葉樹林で発見】

かさ表に孢子 新種キノコ

綾町の照葉樹林で新種のキノコが発見された。発見者は都城市の県木材利用技術センター主任研究員・須原弘登さん(41)。鳥取大農学部講師の経歴を持ちキノコの専門家である須原さんは、「綾の豊かな自然を象徴する発見」と喜んでいる。

2012年7月、同町の生物多様性を調査するため現地を訪れた際、つり橋近くの遊歩道周辺の岩場に群生するクリーム色のキノコを発見。形態や遺伝子などを詳しく調べて新種と判断し、ドイツの菌類専門学術誌「マイコロジカル・プログレス」に論文を投稿したところ、今年6月に新種と認定された。

須原さんによると、新種はヨーロッパで食用として好まれる



須原弘登さん

綾・照葉樹林で発見

アンズタケの仲間。かさの直径は2センチほどしかなく、杯のような形状が特徴。一般的なキノコがかさの裏に孢子を作るのに対して、表側に孢子を作るといって、点でも珍しいという。

綾町を中心とした照葉樹林帯では、これまでも世界的に珍しいキノコが確認されており、須原さんは「手つかずの自然が残されているからこそ、こうした変わりもののキノコが見つかるのだらう」と話す。新種の和名については、「サカズキアンズタケ」を候補に考えている。

(都城支社・中西透)



須原さんが綾町の照葉樹林で発見した新種のキノコ (須原さん提供)

宮崎日日新聞 2015 年 8 月 6 日

10. 【照葉樹林考えるフォーラム開催】

照葉樹林考えるフォーラム開催

綾で来月5日

宮民一体で照葉樹林の保護・復元に取り組む「綾の照葉樹林プロジェクト」の設立10周年記念フォーラムは9月5日、綾町南俣の町高年者研修センターである。参加者を募っている。同プロジェクト連携会議主催で、8月31日締め切り。

午後1時～3時半。宮崎森林管理署の崎野健輔署長が同プロジェクトについて説明するほか、プロジェクト関係者や住民代表計10人が意見を交わすパネルディスカッションがある。参加無料、定員は先着100人。

申し込み、問い合わせは同プロジェクト事務局 ☎0985(35)7288。

午後1時～3時半。宮崎森林管理署の崎野健輔署長が同プロジェクトについて説明するほか、プロジェクト関係者や住民代表計10人が意見を交わすパネルディスカッションがある。参加無料、定員は先着100人。

申し込み、問い合わせは同プロジェクト事務局 ☎0985(35)7288。

 宮崎日日新聞
2015 年 8 月 25 日

11. 【照葉樹林考えるフォーラム開催】

県内 ナラ枯れ深刻



緩の照葉樹林でも、ナラ枯れで葉が茶色に変色した広葉樹が確認されている＝綾町南俣

カビ菌原因「最大被害」

広葉樹のシイやナラ、カシなどがカビの一種・ラファエリア菌で枯死する「ナラ枯れ」の被害がこの夏、県内で深刻化している。県などの調査では、西部市以南の広いエリアで立ち枯れや葉の変色を確認。しかし、ここまで拡大した理由は分からない上に、菌を運ぶ昆虫・カシノナガキクイムシ（体長約5センチ）の抜本的駆除は難しく、関係者は「ここ数十年で最大の被害」「生態系が委わつてしまふ」と危機感を強めている。

カシノナガキクイムシは6月ごろ、産卵のため広葉樹の幹に穴を掘って木の中に潜り込む。虫に菌が付着していると、8月ごろから枯れ始める。ナラ枯れが起きるのは、菌が水分の通り道である道管をふさいでしまったため。虫が入り込んだ木は直径1センチ程度の穴が数多く開いており、穴から樹液や木くずが出て、木の根元に木くずがたまるとなどの特徴があるという。



ナラ枯れの原因となるラファエリア菌を運ぶカシノナガキクイムシ（県林業技術センター提供）

対策難しく生態系危機

宮崎県林業管理課は「葉が茶色くなっている」などの情報を受け、7月下旬に管理する国有林を目視で調査。葉の変色が宮崎市田野町の天神ダム周辺で多くみられたほか、同市加江田、高岡町吉川、小林市野尻町でも散発的に確認された。林野庁によると、県内被害は2011、12年はゼロだったが、13、14年はいずれも200平方メートルに及んでおり、同管理課の崎野健輔課長は「今年はさらに被害が多くなる恐れがある」と話す。

宮崎県林業管理課は「葉が茶色くなっている」などの情報を受け、7月下旬に管理する国有林を目視で調査。葉の変色が宮崎市田野町の天神ダム周辺で多くみられたほか、同市加江田、高岡町吉川、小林市野尻町でも散発的に確認された。林野庁によると、県内被害は2011、12年はゼロだったが、13、14年はいずれも200平方メートルに及んでおり、同管理課の崎野健輔課長は「今年はさらに被害が多くなる恐れがある」と話す。

県自然環境課にも昨年来上回る情報提供があり、目視調査の結果、西部、都城、日南、木城、西米良村などで被害が認められた。小林市須木村から綾町にまたがる国内最大規模の照葉樹林帯でも枯死する木が増えている。30年以上照葉樹林の観察を続ける同町エコーパーク推進室の河野耕三（67）は「本格的な調査はしていないが、これほど広範に被害が出たのは初めて」と危ぶむ。その一方で、虫は木の中に入り込むため薬剤の空中散布は効果がないという。樹木一本一本に薬剤を注入し、成虫や木の中でふ化した虫を外に出ないようビニールで覆う必要があるなど、完全駆除するには手間がかかる。日本樹木医会県支部の讀井孝義支部長（69）は「今年の被害は生態系が変わる恐れがあるほど危うい」と指摘。「対策にかかる労力と資金を考えると、被害をゼロにすることは極めて難しい。国民一体となって最小限に食い止める有効な手段を考えなければ」と訴える。

12日、2015.9.1

12. 【住民と距離縮めたい 綾プロ 10 周年 森づくり討論】

住民と距離縮めたい

綾プロ 10 周年 森づくり討論



「綾プロと住民の距離を縮めることが大切」などの意見が出たパネルディスカッション

官民一体で照葉樹林の保護（会議主催）は5日、綾町南俣の町高年者研修センターで、樹林プロジェクト（綾プロ）の設立10周年記念フォーラム（同プロジェクト連携）が、住民や行政、学識経験者など約170人が出席、講演やパネルディスカッション

を通じて、綾の森づくりについて意見を交わした。

雲南大・大澤雅彦教授に聞く

「綾の照葉樹林プロジェクト（綾プロ）」が設立から10周年を迎えた。スタート時からプロジェクトに携わる日本自然保護協会顧問で雲南大学（中国雲南省）の大澤雅彦教授（69）に現状や展望を聞いた。（聞き手 東陽支局長・山下仁志）

活動10周年を迎えた。大澤 現在、日本の照葉樹林は国内の森林面積のわずか1・6%しかない中、綾はまとまった面積を持つ貴重なエリアで、綾プロの活動は大きな意義がある。綾プロ発足前に住民、学識経験者らが目指した綾の森の世

界自然遺産登録は実現しなかったが、人と自然の共生に長年取り組んできた経緯があるから、2012年の綾ユネスコエコパークの登録につながった。活動の現状は。大澤 プロジェクトの対象面積約1万5千の森林に点在するスギなど人工林を間伐し、林内に光を取り入れることで新たな照葉樹の成長を促している。人工林を自然林へ戻す試みは世界でも初めてで、誤行錯誤しながら進めている状況。ただ、人工林も斜面保全や保水機能を持つっており、大雨など災害への対応を考慮す

フォーラムでは、宮崎森林管理署の崎野健輔署長が、綾プロ立ち上げの経緯について「住民参加型のプロジェクトとして設立した」と説明。綾プロに加わる九州森林管理局が約5000畧の人工林間伐を行ったほか、町が小学生向けの環境教育を展開してきたことなどを報告し

た。パネルディスカッションには綾プロの関係団体や住民の計10人が登壇。てるはの森の下村ゆかりさん（33）は「綾プロと住民の距離をさらに縮めていきたい」と強調。九州森林管理局、県、町、日本自然保護協会顧問の大澤雅彦さん（69）は「間伐後のモニタリング調査が必要」と述べた。べた。町民の一人、会社役員

地元大学とも連携へ



おおさわ・まさひこ 北海道十勝市出身。千葉大、東京大大学院、マラヤ大（マレーシア）で教壇に立ち、2011年から雲南大教授。専門は植物生態学。

ると、徐々に照葉樹に切り替えていかねばならぬ。今後求められること。大澤 現在は九州森林管理局と日本自然保護協会、県や町、てるはの森の会の5者で取り組んでいるが、地元大学も取り

1 3. 【照葉樹林風減活動 10 年 綾でフォーラム 継続へ決意新たに】



発言する前田町長（左から 2 人目）

綾町の照葉樹林は広さ約 2005 年から町内の照葉樹林を復元させるプロジェクトを進めている綾町で 5 日、プロジェクトの 10 周年を記念したフォーラムが開かれた。約 200 人の町民らが出席し、取り組みの継続や発展に向けて決意を新たにした。

照葉樹林復元活動 10 年

綾でフォーラム 継続へ決意新た

2500 総で、国内最大級のプロジェクトは植林された針葉樹を減らし、多様な生態系を育む照葉樹林を復元するため、町や県、市民団体などが共同で始めた。小中学生に対する環境教育講座なども実施している。12 年には町全域と周辺市町村の一部が国連教育・科学・文化機関（ユネスコ）のエコパーク（生物圏保存地域）に登録された。

フォーラムでは、プロジェクトに参加している九州森林管理局の崎野健輔・宮崎森林管理署長がスライドを使ってこれまでの取り組みを紹介。その後、前田穰町長や、管理局、市民団体の関係者などプロジェクト関係者に、一般の町民らを

加えた 10 人が討論した。討論では町民らから「プロジェクトの町内への浸透をもっと図るべき」などと指摘があり、前田町長は「（照葉樹林を）次の世代に引き継ぐためにも、町の自然の豊かさを発信しながら、経済にも結びつける取り組みが必要」などと話していた。

読売新聞 2015 年 9 月 6 日

1 4. 【鬼の洗濯板】

今後はこの長期的な取り組みを把握する体制が必要だ。行政の担当者は数年おきで異動することから、期待できるのは地元住民。綾プロの取り組みは専門的で学術的な側面もあり、難しい部分はあるだろう。住民が活動に関心を持ち続けられるためにも、事務局は分かりやすい情報発信に努めることが求められる。（仁）

10 年前にまいた事業の種は、どこまで成長しただろうか。官民一体で照葉樹林の保護・復元に取り組む「綾の照葉樹林プロジェクト」（綾プロ）の設立 10 周年記念フォーラムが綾町であった。行政や一般社団法人など 5 者が連携し、人工林を照葉樹へ戻す先駆的な試みが長く続いたことは大きな意味があると思う。

鬼の洗濯板

宮崎日日新聞 2015 年 9 月 11 日

15. 【自然生態系 連携し調査 綾町と宮大 協定締結】

綾町と宮崎大（菅沼龍夫学長）は15日、「包括的連携に関する協定」を結んだ。今後3年間、ユネスコエコパークに登録された同町の自然生態系調査などに連携して取り組むほか、産業や福祉といった分野でも協力する。同町が教育機関と同様の協定を結ぶのは初めて。同大学の包括的連携は県内市町村で5例目。

これまでは町の担当課と、大学の農学部や教育文化学部などの各研究室が個別に連携

自然生態系 連携し調査 綾町と宮大 協定締結



包括的連携協定を結び、握手を交わす
前田町長（右）と菅沼学長

綾町と宮崎大（菅沼龍夫学長）は15日、「包括的連携に関する協定」を結んだ。今後3年間、ユネスコエコパークに登録された同町の自然生態系調査などに連携して取り組むほか、産業や福祉といった分野でも協力する。同町が教育機関と同様の協定を結ぶのは初めて。同大学の包括的連携は県内市町村で5例目。

町は大学の知識や技術を生かし、動植物の生態調査や綾の森に関するデータを蓄積して活用。大学は来年4月に創設する地域資源創成学部の学生を中心に、町や農家の現場に学生を派遣する。

町役場で行われた調印式には、関係者約30人が出席。前

田嶋町長は「大学にはこれまで協力してもらってきた資源を活用し、エコパークを進化させるとともに、医療や産業などさまざまな分野の関係が構築できる」とあいさつ。菅沼学長は「大学の持つた。充実し期待したい」と述べた。

宮崎日日新聞 2015 年 9 月 18 日

16. 【多様な自然守り育む 森づくり世界モデルへ】

多様な自然守り育む

ユネスコエコパーク登録



綾町

ユネスコエコパーク登録の森づくり活動が、綾町の自然を守り育むことに貢献している。綾町は、ユネスコエコパークに登録された地域であり、自然環境の保全と持続可能な開発の両立を目指す。綾町の森づくり活動は、ユネスコエコパークの理念に基づき、地域の自然環境を保全し、持続可能な開発を実現するための取り組みである。

綾町の森づくり活動は、ユネスコエコパークの理念に基づき、地域の自然環境を保全し、持続可能な開発を実現するための取り組みである。綾町の森づくり活動は、ユネスコエコパークの理念に基づき、地域の自然環境を保全し、持続可能な開発を実現するための取り組みである。

森づくり世界モデルへ

綾町の森づくり活動は、ユネスコエコパークの理念に基づき、地域の自然環境を保全し、持続可能な開発を実現するための取り組みである。綾町の森づくり活動は、ユネスコエコパークの理念に基づき、地域の自然環境を保全し、持続可能な開発を実現するための取り組みである。

宮崎日日新聞 2015 年 11 月 25 日

17. 【世界一の歩道つり橋 照葉樹林恵み生かす】

宮崎日日新聞

2016年(平成28年)1月4日 月曜日

(8)

世界一の歩道つり橋 照葉樹林恵み生かす

綾町の歩道つり橋が、ユネスコエコパークに登録された地域であり、自然環境の保全と持続可能な開発の両立を目指す。綾町の歩道つり橋は、ユネスコエコパークの理念に基づき、地域の自然環境を保全し、持続可能な開発を実現するための取り組みである。

綾町の歩道つり橋は、ユネスコエコパークの理念に基づき、地域の自然環境を保全し、持続可能な開発を実現するための取り組みである。綾町の歩道つり橋は、ユネスコエコパークの理念に基づき、地域の自然環境を保全し、持続可能な開発を実現するための取り組みである。



世界一の歩道つり橋完成

左はレコード録音機、手づくりの星のジャケット。右は歩道つり橋の開業式のスナップ。

宮崎日日新聞 2016 年 1 月 4 日

18. 【生物多様性アクション大賞 てるはの森の会 優秀賞】



綾町・上畑地区を案内する小西自治公民館長（右）。ふれあいマップを活用した里山ツアーも実施している（てるはの森の会提供）

生物多様性アクション大賞

てるはの森の会 優秀賞

綾 地図作り魅力PR 評価

綾町で照葉樹林の保全活動などを行う「てるはの森の会」（宮崎市、河野耕二代表理事）が、生物多様性の保全（国連生物多様性の10年日本委員会主催）で、本年に次ぐ優秀賞を受賞した。同町の自然や暮らしを集約したマップ作りなどを通して、地域の魅力再発見につながったことなどが評価された。

同賞には「たべよ」「まもろう」など五つの部門があり、同会は「つたえよう」で受賞した。同会は、日本自然保護協会と東京大が2008年から町内で始めた「人と自然のふれあい調査」を引き継ぎ、住民と一緒に地域の聞き取りを実施。これまでに上畑、古屋、幸道の3地区で、住民が後世に伝えたい自然や暮らし、文化などを落とし込んだマップや冊子を作った。古屋地区の歴史などをまとめた冊子では、34年にわたって伝説行事「うねびたき」や同地区が発祥地とされる「羅（ひな）山祭り」といった文化などを紹介。上畑地区ではマップを使った里山ツアーも始まり、10年以降で県内外から累計約800人が同地区を訪れた。小西俊一（上畑自治公民館長60）は「ツアー以前は県外から人が訪れる地区ではなかったが、マップ作りを通して地域も活性化した」と語る。現在は4カ所目となる川中地区の調査中。同会の相馬美佐子事務局長（56）は「地元を学ぶことが地域の将来を考えるきっかけになる。受賞を機に全国に取り組みが広がるとうれしい」と話している。同賞は今回が3回目となり、全国から1万5千件の応募があった。（山下仁志）

宮崎日日新聞 2016 年 1 月 17 日

19. 【募ってます 照葉樹林復元ボランティア】

定日 2016.2.6
募ってます

◇照葉樹林復元ボランティア
13日に綾町南保の川中神社周辺の国有林。綾の照葉樹林プロジェクト連携会議主催。午前8時45分に川中自然公園駐車場に集合、照葉樹林の成長を促すため、ヒノキを間伐する。軍手や雨具、飲み物などを持参する。参加無料で定員30人。8日締め切り。問い合わせはてるはの森の会 0985（35）7288。

宮崎日日新聞
2016 年 1 月 17 日

20. 【自然や観光に提言 子ども会議 22 人登壇】

自然や観光に提言 綾 子ども議会 22 人登壇

昭和 2016.1.26

綾町の小中学生が、町の観光やまちづくりについて質問した新春子ども議会

綾町の新春子ども議会（綾町教委など主催）は20日、同町議会議場であった。綾小6年と綾中2年の計22人が登壇。綾町の自然環境や観光、今後のまちづくりに関して提言や質問した。

綾中2年の木下香乃（14）、今市美琴（14）、落合まなみ（14）さんは、昨年6月に修学旅行で訪れた京都と綾の観光について発表した。3人は歴史的建造物が多い京都に対して、綾は自然環境の良さが魅力であると指摘。今後増加が見込まれる外国人観光客への町の誘客対策を尋ね、前田権町長は「エコパーク登録を機に綾を訪れたいという人が増えている。多言語表記の看板やパンフレットを充実させた」と答弁した。

綾小6年の高木大地君（11）は、官民一体で照葉樹林の保護・復元に取り組む「綾の照葉樹林プロジェクト」の進み具合について質問。前田町長は「最終的に約3000㎡の

森を照葉樹林に戻すことが目的で、現在は全体の10分の1だ。で作業が進んでいる」と応じた。（山下仁志）

宮崎日日新聞
2016 年 1 月 26 日

21. 【本県、綾との連携要望 祖母傾エコパーク総会】

本県、綾との連携要望 祖母傾エコパーク総会

昭和 2016.2.23

佐伯
本県と大分県にまたがる祖母傾山系のユネスコエコパーク登録を目指す「祖母傾ユネスコエコパーク大分・宮崎推進協議会」の総会は22日、大分県佐伯市役所であった。申請書案と登録後10年間を見据えた同パークの管理運営計画案を了承。今月末までに日本ユネスコ国内委員会（事務局・文部科学省）に提出することを決めた。

総会には延岡市、高千穂、日之影町と大分県佐伯、竹田、豊後大野市の6市町の首長ら15人が出席。申請書案の内容が昨年8月の総会で定めた概要と変わらず、文言修正などにとどまったことが報告された。本県側からは綾エコパークとの連携を求める意見などが出され、大分県側は「積極的な住民の機運盛り上げが必要」と指摘した。

同協議会の来年度事業計画案も了承。「エコパークと次世代育成」をテーマ案に豊後大野市で11月26日、6市町合同シンポジウムを開くことなどを決めた。提出される申請書は5月、同国内委員会専門小委員会の分科会で審査後、8月には国内推薦の可否を決定。合格すればユネスコ本部へ9月末に推薦され、来年度の登録を目指す。（森聡子）

宮崎日日新聞 2016 年 2 月 23 日

22. 【本県、綾との連携要望 祖母傾エコパーク総会】

エコパーク 植物学ぶ
綾 県内外大学生が実習



イチイガシの巨木について説明を受ける学生たち 宮日 2016. 3. 4.

ユネスコエコパークを学ぼうと、県内外の6大学の学生13人が2日、綾町の照葉樹林を訪れ、宮崎大農学部河野耕三客員教授(68)の案内を受けた。学生たちは希少な植物などについて学んだ。

演習林を持つ全国の大学が他大学で実習を受けられる単位互換制度の一環。京都府、奈良、静岡、鹿児島県に本部がある大学の学生たち7人が宮崎大生6人と3泊4日の日程で、宮崎市田野町にある同大学の演習林、日南市の林業現場などを視察する。

2日は、約5時間かけて綾町の川中自然公園キャンプ場周辺を散策した。河野さんは、スギなどの人工林を間伐し、光を取り入れて新たな照葉樹の成長を促す「綾の照葉樹林プロジェクト」などを説明。高さ約30m、幹回り3・8mのイチイガシの巨木では、フウランやボウランといった樹上の希少な着生植物を観察した。

静岡大農学部2年の小林千夏さん(20)は「九州の森に入るのは初めて。着生植物をじっくり観察することがなかったで勉強になった」と話していた。(山下仁志)

宮崎日日新聞 2016 年 3 月 4 日

23. 【森の恵み五感で体感 親子ら散策やまき割り】

森の恵み五感で体験
綾 親子ら散策やまき割り

森の恵みを五感で体験する「森のめぐみの工作&散策」は6日、綾町南俣の川中自然公園キャンプ場であった。宮崎市内を中心に親子連れなど約40人が参加し、まき割り体験や森の散策などを通じて自然に触れあった。

森や林業の大切さを知ってもらおうと、てるはの森の会とみやざきアートセンターが企画。2月27日に宮崎市内で行われた木工教室に続き、6日は同町の森で体験活動を行った。

この日は南九州大都城キャンパス・子ども教育学科の学生たちが考えた教育プログラムを実施。子どもたちに木を切ってエネルギーを作り出す「森の循環」を理解してもらうため、のこぎりやおのを使つてまきを切り、まきストーブに火を付けた。森へ入って高さ約30mのイチイガシの木を触ったり、鳥の声に耳を傾けたりもした。

父親と2人で参加した宮大付属小2年の廿日出真由子さん(8)は「まき割りは2回目だけど、大きな木を触った」。



のこぎりでまきを切る参加者 宮日 2016. 3. 6

宮崎日日新聞 2016 年 3 月 8 日

24. 【研究テーマ探る 宮大新学部教員ら綾視察】



研究テーマ探る

宮大が来年度新設する地
域資源創成学部の教員ら12人、町長と意見交換した。

宮崎大と町は昨年9月、「包括的連携に関する協定」を締結。学年がある程度そろった数年後をめどに、同学部の教員と学生は同町をフィールドにさまざまな研究調査などに着手する。ただ、教員全24人のうち半数以上が県外から着任す

町は現状を把握し、研究テーマのヒントを探ろうと宮崎大地域資源創成学部の教員らと前田町長

宮大新学部教員ら綾視察

るため、まず町の現状を知り、研究テーマ設定の参考にしようと初めて企画された。教員らは地場産品直売所「綾手づくりほんものセンタ―」や照葉大吊橋などを訪問。町独自に農産物をランク付けする認定制度や、スギなどの人工林を間伐し新たな照葉樹の成長を促す「綾の照葉樹林プロジェクト」などの説明を受けた。

意見交換では、前田町長が「地方の悩みは産業経済基盤が弱いこと。この点で力添えいただけるとありがたい」と強調。教員たちは「学部で扱う分野は食品やベンチャービジネスなど多岐にわたる」とアピール、「親子3世代のま

ちづくりを目標に掲げているが、具体的な取り組みは」などと熱心に質問していた。

新学部の専任講師で農村社会学・地域社会学が専門の声田裕介さん(32)は「自治公民館制度がしっかり根付いていると感じた。コミュニケーションについて学生たちと研究したい」と話していた。

(山下仁志)

宮崎日日新聞 2016 年 3 月 19 日



発 行：平成 28 年 7 月

発行者：綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画 連携会議

編 集：一般社団法人てるはの森の会

お問い合わせ先：

〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島 2 丁目 9-6 みやざき NPO ハウス 403 号室

TEL:0985-35-7288 FAX:0985-35-7289 電子メール:teruha@miyazaki-catv.ne.jp

ホームページ: <http://teruhanomori.com>